

会記・Proceedings

魚類学雑誌
46(2): 129-137

2000年度 年会のお知らせ

2000年度年会の予定をお知らせします。詳細は2000年5月に出版される魚類学雑誌47巻1号に掲載します。

期 日：2000年10月6日(金)～10月9日(月)

6日 編集委員会・評議員会

7-9日 研究発表会およびシンポジウム

会 場：神奈川県立生命の星・地球博物館

〒250-0031 小田原市入生田499

備 考：市内ホテル・保養施設を申し込み者に限り年会事務局で幹旋する予定です。

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2000年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し、郵便で事務局までお送りください。会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので、あらかじめご了承されるようお願いいたします。セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください。

申 込 先：〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館内 日本魚類学会事務局 須之部友基
FAX: 043-266-2481 e-mail: i90424@simail.ne.jp

必要事項：(1) 標題、(2) 企画者氏名、(3) 趣旨説明(1000字以内)、(4) 演者と演題、(5) 連絡先住所・氏名(電話、ファックス、e-mail)。なお、標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが、内容が明瞭にわかるようにして下さい。ただし、実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい。

申込締切：2000年1月31日

1999年度第1回役員会

1999年2月19日(金)、於 国立科学博物館分館2階会議室、出席者：沖山、尼岡、林、川瀬、河野、宮、岡部、瀬能、篠原、須之部、中川(学会事務センター)、山本(学会事務センター)

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：今年度の投稿原稿は英文誌10篇、和文誌2篇で、英文誌29篇、和文誌8篇が受理されている。庶務：名簿担当者を編集補佐に位置づけることになった。会計：学会事務センターより1998年度の収支決算報告と2000年度の収支予算案が報告された。会費の値上げについて検討した。

3. 1999年度年会について：シンポジウムに「浅海の魚類の生態—水中観察と記録から—20年の歩み」(コンビナー：中園明信・具島健二) および「この親にしてこの子あり—系統類縁に関する個体発生のアプローチの効用と限界」(コンビナー：望岡典隆・木下泉・松井誠一・沖山宗雄)の申し込みがあり承認された。
4. 学会賞について：学会賞の運営について検討した。
5. その他：水産研連科学研究費補助金審査委員の候補者2名を評議員の推薦で会員の中から選ぶことになった。学会事務センターの担当者が山本義道氏から中川庸幸氏に交代した。

1999年度第2回役員会

1999年4月7日(水)、於 国立科学博物館分館2階会議室、出席者：沖山、尼岡、川瀬、宮、瀬能、篠原、須之部

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：今年度の投稿原稿は英文誌23篇、和文誌4篇で、英文誌35篇、和文誌4篇が受理されている。庶務：幸田正典氏が編集委員として新たに加わることになった。
2. 水産研連科学研究費補助金審査委員の候補者について：評議員にはかった結果、松浦啓一・中園明信両氏が選出された。
4. 学会賞について：学会賞の内容と運営について検討した。
5. その他：講演要旨に参加者名簿を載せることになった。

1999年度第3回役員会

1999年5月14日(金)、於 国立科学博物館分館2階会議室、出席者：沖山、尼岡、宮、瀬能、篠原、須之部、上野

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：今年度の投稿原稿は英文誌34篇、和文誌7篇である。庶務：評議員選挙のスケジュールを説明した。
3. 科研費審査委員候補者の分担について
4. 学会賞について：学会賞受賞規則および細則について検討した。日本学術会議の学術研究団体登録申請について経過報告があった。
5. 科研費審査委員候補者について：松浦啓一氏より説明を受け、学会としてどのような候補者にするか検討した。
6. 天皇陛下在位10周年記念シンポジウムについて：東京大学海洋研究所、国立科学博物館と共催で開催することが了承され、開催に向けてワーキンググループが作られた。

1999年度第4回役員会

1999年8月6日(金)、於 国立科学博物館分館2階会議室。
出席者：沖山、尼岡、川瀬、宮、岡部、瀬能、篠原、須之部、
中川(学会事務センター)

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：現在の投稿原稿は英文誌54篇、和文誌12篇。会計：予算の現状について報告があり、会費の値上げについて検討した。
3. 会長(2002-2003年度)選挙開票結果 投票総数38, 有効票38, 無効票0; 松浦啓一(14票), 沖山宗雄(6票), その他1名(3票), 5名(2票), 5名(1票)。以上の結果, 松浦啓一氏が次期会長に選出された。
4. 評議員(2000-2003年度)選挙開票結果 53名の評議員が選出された。北海道地区(5名): 仲谷一宏, 尼岡邦夫, 後藤晃, 堀山雅秀, 矢部衛(次点 山内皓平); 東北地区(2名): 井田齊, 佐原雄二(次点 山下洋); 関東地区(16名): 沖山宗雄, 林公義, 松浦啓一, 瀬能宏, 河野博, 望月賢二, 多紀保彦, 塚本勝巳, 上野禪彌, 宮正樹, 藤田清, 新井良一, 坂本一男, 佐野光彦, 谷内透, 篠原現人(次点 川口弘一); 中部地区(10名): 細谷和海, 木村清志, 岡崎登志夫, 桑村哲生, 西田睦, 小野里坦, 南卓志, 本間義治, 鈴木克美, 井口恵一朗(次点 片野修); 近畿地区(8名): 中坊徹次, 川那部浩哉, 荒賀忠一, 岩田明久, 中村泉, 木下泉, 波戸岡清峰, 田中克(次点 名越誠); 中国・四国地区(5名): 柳沢康信, 山岡耕作, 水野信彦, 町田吉彦, 岡村取(次点 具島健二); 九州地区(7名): 中園明信, 吉野哲夫, 田北徹, 四宮明彦, 多田田修, 小澤貴和, 東幹夫(次点 松井誠一, 立原一憲)。
5. 「国際学術研究」について 当学会が提出した「国際学術研究」に関する要望書に対する日本学術振興会からの回答が報告された。
6. その他: 分類学会連合設立の経過報告があった。

1999年度第5回役員会

1999年9月10日(金)、於 国立科学博物館分館2階会議室。
出席者：沖山、尼岡、林、川瀬、河野、瀬能、篠原、須之部

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集：現在の投稿原稿は英文誌54篇、和文誌12篇。会計：別刷り代金の滞納の問題について報告があり、対策を検討した。庶務：2002年度年会開催地の候補について報告があった。ホームページの新たな利用方法について提案があった。
3. 1999年度年会について：評議員会の議題について検討した。
4. その他 分類学会連合への参加について経過報告があった。

1999年度 年会

1999年度年会が1999年10月8日(金)-11日(月)に九州大学(箱崎キャンパス)において開催され、以下の会合があった。

1. 1999年度第1回編集委員会

10月8日(金)12:00-14:30に編集委員13名が出席して1999年度第1回編集委員会が開かれた。議題は以下の通り。1) 1999年度編集報告。2) 投稿規定の改訂と論文校閲プロセスの見直しによって生じた問題。3) 編集委員と編集顧問の拡充。4) その他。

2. 1999年度第1回評議員会

10月8日(金)15:00-18:00に評議員23名(他に委任状16名)が出席して開催された。議長には山岡耕作氏が選出された。議事は以下の通りであった。1) 1999年度会務報告。2) 1999年度編集報告。3) 1998年度決算報告, 同監査報告, および1999年度報告。4) 2000年度収支予算(案)。5) 別刷り費の滞納について。6) 日本学術会議に関する報告。7) 自然史学会連合に関する報告。8) 動物分類学会連合への参加について。9) 「天皇陛下在位10周年記念・魚類の多様性に関するシンポジウム」について。10) 学会賞について。11) その他

以上の議題のうち、1999年度会務報告、1999年度編集報告、1998年度決算報告、同監査報告、および1999年度報告、2000年度収支予算(案)については、原案通り承認された。編集方針の変更に伴う論文校閲の問題について宮正樹編集委員長が魚類学雑誌に経過を報告することになった。財政が逼迫しつつあることから、財政維持の方法について会計より提案があり、2000年度から会費を3000円値上げすることになった。また、印刷代の滞納者への対処について討議し、学会事務センターを中心にさらに請求してゆくことになった。学会賞の運営について今後も検討を加え来年度年会までに原案を提出することになった。今後の年会の開催地は2000年度神奈川県立生命の星・地球博物館、2001年度鹿児島大学、2002年度信州大学に決定した。

3. 1999年度第1回総会

1999年10月9日(土)11:15-12:00。出席者60名。議長には山岡耕作氏が選出された。議事は以下の通りであった。1) 1999年度会務報告。2) 1999年度編集報告。3) 1998年度決算報告, 同監査報告, および1999年度報告。4) 2000年度収支予算(案)。5) 別刷り費の滞納について。6) 日本学術会議に関する報告。7) 自然史学会連合に関する報告。8) 動物分類学会連合への参加について。9) 「天皇陛下在位10周年記念・魚類の多様性に関するシンポジウム」について。10) 学会賞について。11) その他。4) については2000年度より3000円の値上げが承認された。議事終了後、オークション売上金による旅費援助の抽選会があった。32名の応募があり(欠席7名)、10名が当選し1人20,000円が授与された。

4. 研究発表会・シンポジウム

第1会場・第2会場・ポスター会場に分かれて研究発表会が

行われた。研究発表は133題で、参加者は約280名であった。一般公開した2題のシンポジウムのうち「浅海の魚類の生態—水中観察と記録から—20年の歩み」には約80名が参加し、「この親にしてこの子あり—系統類縁に関する個体発生学的アプローチの効用と限界」には約80名が参加した。

5. 懇親会・シンポジウム懇親会

懇親会は10月10日(日)18:45-19:00、200名の参加者で開催された。シンポジウム懇親会は10月11日(月)17:30-19:30、70名の参加者で開催された。

6. 公開特別講演会

10月9日(土)17:30-18:30、「内田恵太郎先生の思い出」のタイトルで水戸敏氏による公開特別講演会が行われ約200名が参加した。

7. オークション

年会会場では書籍等のオークションが行われ、約11万円の基金を得ることができた。

8. 評議員会・総会抜粋資料

会員数
(1998年8月現在)

	国内	国外	計
個人会員	1139 (+17)	172 (+2)	1311 (+19)
名譽会員	4 (+3)	3	7 (+3)
団体会員	91 (-1)	0	91 (-1)
賛助会員	3 (-1)	0	3
購読	31 (-8)	97 (-2)	129 (-8)
寄贈	5	11	16

注1. ()内は1998年7月時点に対する増減

会員数および入退会者数の推移

年度	国内個人会員			国外個人会員			退会 処分
	会員数	入会	退会	会員数	入会	退会	
91	913	30	12	211	8	1	17
92	920	47	26	214	5	3	7
93	940	55	18	222	8	7	18
94	1002	30	10	176	7	6	58
95-96	1056	131	41	192	20	6	13
96-97	1106	74	21	177	9	2	34
97-98	1121	70	27	170	9	2	55
98-99	1139	72	29	172	11	3	29

注1. 1994年度以前の会員数は3月上旬、入退会者数は3月末日に集計
 注2. 1995-1996年度の集計期間は1995年1月-1996年7月；1996-1997年度の集計期間は1996年8月-1997年7月；1997-1998年度の集計期間は1997年8月-1998年6月；1998-1999年度の集計期間は1998年8月-1999年7月

1998年度編集報告

1) 投稿論文

1998年：102篇(英文誌83篇、和文誌19篇)

投稿論文内訳

英文誌：分類22 (26.5%)；系統1 (1.2%)；形態5 (6.0%)；分布10 (12.0%)；行動生態10 (12.0%)；生態一般10 (12.0%)；仔稚魚12 (14.5%)；遺伝(核型分析を含む)7 (8.4%)；生理2 (2.4%)；組織4(4.8%)

和文誌：分類1 (5.3%)；系統0 (0.0%)；形態1 (5.3%)；分布5 (26.3%)；行動生態0 (0.0%)；生態一般7 (36.8%)；仔稚魚1 (5.3%)；遺伝(核型分析を含む)3 (15.8%)；生理1 (5.3%)；組織0 (0.0%)

1999年7月20日現在：60篇(英文誌49篇、和文誌11篇)

投稿論文内訳

英文誌：分類18 (36.7%)；系統4 (8.2%)；形態0 (0.0%)；分布2 (4.1%)；行動生態4 (8.2%)；生態一般7 (14.3%)；仔稚魚6 (12.2%)；遺伝(核型分析を含む)7 (14.3%)；生理1 (2.0%)；組織0 (0.0%)

和文誌：分類0 (0.0%)；系統0 (0.0%)；形態0 (0.0%)；分布6 (54.5%)；行動生態0 (0.0%)；生態一般3 (27.3%)；仔稚魚1 (9.1%)；遺伝(核型分析を含む)1 (9.1%)；生理0 (0.0%)；組織0 (0.0%)

2) 出版に要した期間

英文誌(44巻3号から45巻2号まで)

受付から出版までの日数

最短期間：206日(7カ月)；最長期間：613日(20カ月)；平均期間：365日(12カ月)。

和文誌(44巻2号から46巻1号まで)

受付から出版までの日数

最短期間：134日(4カ月)；最長期間：601日(20カ月)；平均期間：394日(12カ月)。

日本魚類学会 1998年度収支計算書
(1998年1月1日～1998年12月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算-決算
会費	8,700,000	9,676,187	-976,187
正団体会員会費	6,850,000	7,631,000	-781,000
団体助国会費	1,020,000	1,164,000	-144,000
費外国会費	80,000	80,000	0
購英文誌・和誌購読料	750,000	801,187	-51,187
購英文誌・和誌購読料	921,000	898,500	22,500
購英文誌・和誌購読料	864,000	756,000	108,000
購英文誌・和誌購読料	57,000	142,500	-85,500
バックス・ナシバ-収入	350,000	188,820	161,180
広著者負担印刷代	160,000	240,000	-80,000
刊行助取入金	1,300,000	1,051,950	248,050
雑入	2,680,000	2,730,000	-50,000
年会準備金戻入	150,000	567,796	-417,796
名簿積立金戻入	50,000	78,000	-28,000
会誌発行引当金戻入	103,490	103,490	0
	750,000	750,000	0
	670,000	670,000	0
当期収入合計	15,834,490	16,954,743	-1,120,253
前年度繰越金	5,371,210	5,371,210	0
合計	21,205,700	22,325,953	-1,120,253

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算-決算
会名編会役員シ消耗印務器	8,000,000	8,117,503	-117,503
誌簿	750,000	594,434	155,566
発行製送合ム	2,200,000	2,222,450	-22,450
発作集発会ジウ品	900,000	971,546	-71,546
シンボ	50,000	40,837	9,163
消耗品	200,000	200,000	0
通信	50,000	837	49,163
印	400,000	411,488	-11,488
刷	250,000	156,330	93,670
管	250,000	250,000	0
運件通委備費	20,000	0	20,000
託品	200,000	376,800	-176,800
費	2,450,000	2,722,825	-272,825
金	100,000	0	100,000
費	30,000	42,068	-12,068
金	300,000	346,649	-46,649
入	15,000	3,539	11,461
金	670,000	682,500	-12,500
失	200,000	200,000	0
費	0	24,354	-24,354
予	100,000	0	100,000
当期支出合計	17,135,000	17,364,160	-229,160
次年度繰越金	4,070,700	4,961,793	-891,093
合計	21,205,700	22,325,953	-1,120,253

貸借対照表

1998年12月31日
(単位：円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
預け金	1,860,158	未払費用	4,314,742
小口現金	67,591	前受会費	2,885,500
前払費用	82,690	会誌発行引当金	682,500
未収入金	413,200	名簿製作積立金	200,000
立替金	850,142	国際会議繰入金	1,477,972
定期預金	7,259,127	オークション積立金	581,155
金銭信託	4,570,754	次年度繰越金	4,961,793
		前年度繰越金額	5,371,210
		今年度収支差額	-409,417
合計	15,103,662	合計	15,103,662

財産目録

1998年12月31日
(単位：円)

資産の部

科目	摘要	金額
流動資産		
預け金	(財)日本学会事務センター	1,860,158
小口現金	学会幹事手元金	67,591
前払費用	通信費(98年度会費請求書等郵税)	82,690
未収入金		413,200
	著者負担印刷代料	313,200
	広告会誌別刷代店	100,000
立替金	学業誌銀行本座支店	850,142
定期預金	第一勧業銀行本座支店	5,000,000
定期金	日本信託銀行本座支店	2,259,127
金銭信託	日本信託銀行本座支店	4,570,754
合計		15,103,662

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
流動負債		
未払費用		4,314,742
	役員会交通費精算	376,800
	欧文誌 Vol. 45-4 会誌作製費	1,873,023
	和文誌 Vol. 45-2 会誌作製費	1,339,005
	会誌送費等(欧文誌 Vol. 45-4, 和文誌 Vol. 45-2)	311,065
	名簿製作製費	414,849
前受会費	99年以降分会費	2,885,500
会誌発行引当金		682,500
名簿製作積立金		200,000
国際会議繰入金		1,477,972
オークション積立金		581,155
合計		10,141,869

繰越金

(単位：円)

科目	摘要	金額
前年度繰越金		5,371,210
今年度収支差額		-409,417
合計		4,961,793

日本魚類学会 2000 年度収支予算
(2000年1月1日～2000年12月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	99 年度予算額	00 年度予算額	備 考
会 費	8,870,000	12,190,000	
正 会 員 会 費	7,050,000	10,170,000	1130×90%×10,000
団 体 会 員 会 費	1,040,000	970,000	90×90%×12,000
賛 助 会 員 会 費	80,000	60,000	3×100%×20,000
外 国 会 員 会 費	700,000	990,000	* 1
購 読 料	890,000	804,000	
英 文 誌 ・ 和 文 誌 購 読 料	720,000	576,000	80×12,000×60%
英 文 購 読 料	170,000	228,000	40×9,500×60%
パ ッ ク ナ ン ン パ ー 取 入	150,000	180,000	
広 告 刊 行 担 助 取 入	200,000	300,000	30,000×5×2
著 者 負 担 助 取 入	900,000	1,000,000	
刊 行 助 取 入	2,730,000	2,320,000	
雑 入	150,000	200,000	
入 金	50,000	50,000	
年 会 準 備 金 戻 入 取 入	—	—	
オ ー ク シ ョ ン 積 立 金 取 崩 取 入	250,000	250,000	
名 簿 積 立 金 戻 入 取 入	0	400,000	
会 誌 発 行 引 当 金 戻 入 取 入	682,500	580,000	
当 期 収 入 合 計	14,872,500	18,274,000	
前 年 度 繰 越 金	4,961,793	3,216,793	
合 計	19,834,293	21,490,793	

支出の部

(単位：円)

科 目	99 年度予算額	00 年度予算額	
会 誌 発 行 費	8,000,000	8,200,000	
英 文 誌	5,600,000	5,700,000	
和 文 誌	2,400,000	2,500,000	
名 簿 製 費	0	400,000	
編 集 費	2,200,000	2,200,000	
会 誌 送 合 費	900,000	950,000	
役 員 送 合 費	50,000	50,000	
シ ン ボ ム 費	200,000	200,000	
消 耗 品 費	50,000	50,000	
通 信 費	300,000	400,000	
諸 刷 費	150,000	150,000	
年 会 運 営 費	250,000	250,000	
年 会 参 加 補 助 金	250,000	200,000	
人 交 通 費	20,000	20,000	
交 業 務 託 費	300,000	400,000	
什 器 備 品 費	2,500,000	2,700,000	
協 助 費	100,000	100,000	
雜 費	50,000	50,000	
国 際 会 議 費	300,000	350,000	
会 誌 行 議 引 金	15,000	10,000	
名 簿 製 行 引 金	682,500	580,000	
雜 予 損 備 金	200,000	200,000	
当 次 支 出 合 計	16,617,500	17,560,000	
前 年 度 繰 越 金	3,216,793	3,930,793	
合 計	19,834,293	21,490,793	

* 1 外国会員会費は{130×(7,000-350)×80%}+{40×(10,000-500)×80%}で算出。

※ 99年度予算額の前年度繰越金は98年度決算額による。

編集委員会からのお知らせ

魚類学雑誌が英文誌と和文誌に分割刊行されるようになって早くも4年が経過しようとしています。この間、英文誌は世界の魚類学の発展に貢献する国際的なジャーナルとして、また和文誌はおもに国内を中心とした魚類学のジャーナルとして順調に発展し、国内外から高い評価を得てきました。昨年度の編集委員会では、投稿規定や論文校閲方式に起因する混乱やトラブルがいくつか生じたことに対して、また、編集顧問から要望があったジャーナルのより一層の国際化に対して、「論文校閲方式の見直し」と「投稿規定の一部改訂」を行うことで合意が得られました。また、両者を執り行うことは、評議員会ならびに総会の席上において了承されました。

ところが今年の9月、4名の会員から沖山会長宛に、昨年度に行われた「論文校閲方式の見直し」と「投稿規定の一部改訂」に対する要望書が提出されました。内容の要点を整理すると次のようになります。

- 1) 投稿規定の改訂前に投稿された論文の取り扱いに対する要望。
- 2) 分布域拡大を取り扱った論文の取り扱いに対する要望。
- 3) 論文校閲方式の見直しに対する要望。
- 4) 編集委員会への意見を述べる場がないことに対する要望。

それぞれの項目について今年度の年會会期中に開催された編集委員会で議論した結果、以下のような対応をとることとしましたので、会員の皆様にご報告いたします。なお、この内容は今年度の評議員会ならびに総会において了承されました。

- 1) 事実関係を調査した結果、投稿規定改訂前に投稿された論文に対して、これまでより厳しい規準のもとでの改訂を勧めたり、和文誌への再投稿を勧めたりなど、事情を知らない会員に対して不適切な対応が何件もありました。また、分布域拡大が主題に見えかねないタイトルの論文が投稿規定改訂後の英文誌に何篇も掲載されました。当該論文の著者にとっては、分布域拡大を取り扱った論文に対する編集委員会の対応に差があるのではないかと疑問に感じざるをえなかったと思われます。編集委員会としては、この事実を率直に認め、関連する投稿論文の著者の皆様に対して深くお詫びする次第です。
- 2) 単なる分布域拡大に関する論文を英文誌に掲載しないという方針は、編集委員会で十分に討議し、評議員会の承認を経て、さらに魚類学雑誌(45巻2号)にお知らせとして掲載しました。編集委員会としては、今後もこの方針を続けるということで合意しました。ただし、原則として分布域拡大に関する論文を掲載しないということは、あくまでもそれを主題にした論文(たとえば単なる初記録)を掲載しないということの意味しているにすぎません。したがって、著者の判断によって投稿された論文については、通常の編集プロセスに従い、担当編集委員に送り、校閲者の意見を求め、最終的には担当編集委員が掲載可能かどうかを判断することとしました。なお、判断が困難をきわめる場合には、担当編集委員が編集委員長と主任編集委員あるいはすべての編集委員に相談し、判定を下すこととしました。
- 3) これも2)の問題と同様に、編集委員会で十分に討議し、評議員会の承認を経て、さらに魚類学雑誌(45巻2号)にお知らせとして掲載しました。詳しい見直し内容については昨年の

お知らせをご覧ください。

そもそも論文校閲方式の見直しのきっかけは、かつて担当編集委員を介さず論文の著者が校閲者に直接クレームをつけた事件が起こったからです。また、校閲者の中には毎年巻末で行っている校閲者に対する謝辞に名前を公表されることを拒否する方もいます。したがって、校閲者の匿名性の確保はどうしても必要です。さらに、校閲者の意見はあくまでも参考意見であり、掲載の可否の判定は担当編集委員に一任されています。したがって、昨年度改訂した論文校閲方式を今後も続けていくこととしました。

ただし、より公平な論文校閲を行うために、二つの方策を新たに決定しました。まず一つ目は、著者と担当編集委員の意志疎通をはかり、かつ担当編集委員の判断をより明確にするために、判定用紙を新たに設けることとしました。判定用紙には、校閲者の意見を参考にして担当編集委員がどう判断したのかを明記することとします。二つ目は、掲載が不可の場合、担当編集委員は校閲者の意見と先の判定用紙のコピーを編集委員長と主任編集委員に送ることとしました。こうすることによって、担当編集委員の作業量と責任はより重くなるのですが、論文の掲載の可否に関してはより公平になるものと考えています。

- 4) 英文誌と和文誌の編集に対する全般的な意見や要望については、両誌の編集後記の中で委員長あるいは主任が受け付けることをアナウンスします。また、これらの意見・要望については編集委員会で検討することをお約束し、さらに必要であれば誌上に意見や要望に対する対応について随時お知らせします。

(宮 正樹 Masaki Miya: 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館動物学研究所 E-mail: miya@chiba-muse.or.jp)

**天皇家下御在位10周年記念・魚類の多様性に関する
国際シンポジウム—生物多様性理解の
新しい地平に向けて—**

日 時：平成12年2月24日(9:00-17:00)-25日(9:00-17:30)

会 場：国立科学博物館上野本館(東京都台東区上野公園7-20)

来年の2月に東京大学海洋研究所、日本魚類学会および国立科学博物館の共催で、魚類の多様性に関する国際シンポジウムを東京で開催します。本シンポジウムは現在世界的に注目されている種多様性の問題を魚類を対象に討議し、21世紀へ向けて研究を発展させる目的で企画されたものです。

本年度は天皇家下御在位10周年にあたります。本シンポジウムは魚類分類学者である陛下と深くかかわりがあるため、記念行事のひとつに選ばれ、多くの海外の研究者を招聘して開催できることになりました。

シンポジウムは各分野の第一線で活躍されている国内外の研究者の招待講演と公募によるポスター発表から構成されます。招待者には、魚類体系学を主軸にしつつ、魚類の多様性について、分類、系統、形態、生態、発生、遺伝、行動など、様々な話題を発表してもらいます。海外からはL. Bernatchez(集團)

伝学), K. Carpenter (分類学), K. Cole (組織学), B. B. Collette (分類学), G. D. Johnson (系統学), T. D. Kocher (分子遺伝学), H. K. Larson (分類学), J. M. Leis (稚魚分類学), C. Magnhagen (行動生態学), E. O. Murdy (分類学), J. R. Paxton (保全学), T. W. Pietsch (分類学), C. St. Mary (行動生態学), E. O. Wiley (系統学)などが来日の予定です。ポスター発表についてはこれから募集しますので、発表を希望される方は下記の「ポスター発表の募集」をご覧ください。

本シンポジウムへ参加をご希望の方は1月20日までに下記事務局へ往復はがき(返信用のハガキに自分の住所氏名を記入のこと)もしくはE-mailにて申し込みください。参加料は無料です。会場等の都合により参加者は先着約100名に限らせていただきますのでご了承ください。また24日(水)18時より懇親会を予定しています(有料、6000円程度を予定)。懇親会に参加を希望される方は、その旨明記してお申し込みください。

その他ご不明な点がありましたら下記事務局へご連絡ください。

事務局：〒164-8639 東京都中野区南台1-15-1
東京大学海洋研究所海洋分子生物学部門内
魚類の多様性国際シンポジウム実行委員会事務局
代表 西田 睦
TEL 03-5351-6487または6329
FAX 03-5351-6488または6579
E-mail symposium@darwin.ori.u-tokyo.ac.jp

ポスター発表の募集

本シンポジウムでは魚類の多様性に関するポスター発表を募集します。魚類学会会員でしたらどなたでも発表できます。本シンポジウムの趣旨に沿っていれば分野は問いませんが、言語は英語に限ります。

発表時間：両日とも1時間半で、24日は13:30-15:00、25日は11:00-12:30をポスターセッション用に確保してあります(これらの時間帯は招待講演とは重なりません)。

発表スペース：縦120cm、横180cmの横長のボード(脚付き)、申し込み締め切り：2000年1月20日。

申し込み方法：要旨は英文で作成し、E-mailでお送りください。添付書類ではなくテキスト文でabstract@darwin.ori.u-tokyo.ac.jpまでお願いいたします。参加と発表を別々のメールアドレスで受け付けるため、シンポジウム参加受け付けを済ませてからポスター発表の申し込みをしてください。

要旨の書き方：要旨は最初にタイトルと氏名(著者が複数の場合は発表者名の左側にアスタリスク(*)をつけてください)、次に本文(英文、350語以内)、最後に括弧書きでE-mailアドレス；所属を書いて下さい。

その他：ポスターの張り付けに必要なテープ・画鋏はこちらで用意します。なお、ポスター会場には講演会場とは別にかなり広い室を確保していますので、演題数の上限は設けていません。

日本で海外の著名な研究者が一同に会する機会は1985年の太平洋とインド洋の魚類に関する国際研究会議以降一度もありません。この機を逃さず、自らの研究をアピールし、意見交換の場としておおいに利用してください。特に大学院生を含む若手研究者の方々からの意欲的な発表を歓迎いたします。

シンポジウム実行委員会

ポスターセッション担当：篠原現人
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1
国立科学博物館動物研究部動物第二研究室
TEL 03-3364-7125
FAX 03-3364-7104
E-mail s-gento@kahaku.go.jp